

## が育むもの



来たなと心躍る。 太鼓や笛の囃子が聞こえ始めると、秋が

れたのが始まりと言われているが、明らか に伝えられ、氏神である新北神社に奉納さ 奉納される[三重の獅子舞]は、約600年 諸富町新北神社の秋の大祭にあわせて 五穀豊穣に感謝する祭りの季節だ。 越後国(現在の新潟県)から肥前蓮池

定を受けており、祭り当日は大勢の観客で 現在は佐賀県重要無形民俗文化財の指

はならない」と、昭和6年ごろから、新北神くなった。「長い歴史を持つ祭りを無くしていたが、後継者不足で単独での開催が難し 社の氏子地区の青年、壮年で実施してい 昔は三重地区の青年、壮年だけで行って

な所作にある。獅子使い(獅子の頭を持つ 三重の獅子舞の大きな特徴は、曲芸的

> ぎ」だ。 る者をさらに肩車で持ち上げる「3段継役目)を肩車する「2段継ぎ」、肩車してい

なる様は圧巻だ。 雄と雌の獅子が躍動し、 一気に大きく

しく、文化的価値が高いとされている。 この勇壮な舞は全国的に見ても大変珍

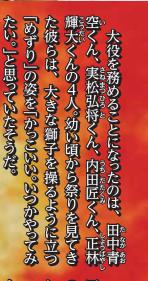
目だ。 起こしたり、獅子の怒りを鎮め、あやす役 が「めずり」だ。遊びつかれて眠った獅子を この祭りに欠かせない役目がある。それ

る 年の担当地区から選ばれ、8月下旬から、学校高学年の男子と決められている。その 祭り直前の10月中旬まで練習が行われ 「めずり」を務めることができるのは、小

区・浮盃の公民館では「めずり」の練習が今年の祭りを取り仕切る「お下り」地 始まっていた。







ずできるものでは決してない。自分の住む とになる。 彼らは一生に一度の貴重な経験を得たこ 小学校高学年でなくてはならないからだ。 地区が祭りの当番となった年に、ちょうど この「めずり」、実はやりたいと思って必

行い、体に覚えさせていく。 導を受けながら、独特の所作を繰り返し練習では「三重の獅子舞操作員会」の指

で勢いよく回さんば!」 すな。」「しっかり声ば出せ。棒は顔の前ま 指導者のひとり、野中大将さんは、24年指導の声にも熱がこもる。

で、子どもたちには誇りを持って舞って欲たけど、いい経験だった。伝統ある祭りなの「本番は緊張した。練習は楽ではなかっ前に「めずり」を務めた。 しと話す。



の大人が見守る。時に厳じく、真剣に助言区の役員や保護者、操作員など20人以上区の役員や保護者、操作員など20人以上 るだろう。 大役を務めることで、きっと大きく成長す少年たちはこの祭りで「めずり」という し、うまく出来た時には拍手でねぎらう。

赤の衣装に身を包み、凛とした表情の少年 たちに会えることを楽しみにしている。 今年の奉納が間近に迫った。当日は緑と



■お下り地区 程 10月15日(1) 浮盃

お旅所 東寺井、 西寺井、 上

3

市報さが 平成29年10月1日号

市報さが 平成29年10月1日号

2